

事項	本県において新たに確認されたアシグロハモグリバエの発生実態と防除対策		
ねらい	アシグロハモグリバエの発生が本県で初めて確認された。本種は寄主範囲が広く、分布の拡大が懸念されることから、本県における発生実態等について取りまとめ、防除対策上の参考に供する。		
指導参考内容	<p>1 発生実態 平成16年に津軽・南部両地域の9市町村17地点で発生が確認され、寄生が確認された作物は、野菜、花き及び雑草を含め14科30品目となっている。</p> <p>2 被害の様相 幼虫による線状潜葉痕が葉脈沿いに集中する傾向があり、特に、いんげんまめ、きゅうり、ほうれんそう、チンゲンサイ、アスター、きく、宿根カスミソウの被害が著しい。また、ふ化幼虫の食入痕は細く発見しづらいので注意を要する。一方、成虫による食害や産卵痕は小さな斑点状が目立つ。</p> <p>3 形態等の特徴 (1) 成虫は、体長2mm前後、体色は黄色と黒色で同じ <i>Liriomyza</i> 属のナスハモグリバエ、マメハモグリバエなどに似るが、腹部腹板が黒色で脚が黒ずむ点在这些近縁種とは異なる。 (2) 老熟幼虫は体長3mm程度の乳白色の小さなウジで、前記の近縁種と同様に葉から脱出して蛹になるが、県内で普通に発生が見られるナモグリバエは葉の中で蛹になる。</p> <p>4 発生生態 (1) 卵から成虫になるまでの所要日数は20℃で23日、25℃で16日、30℃で13日程度と比較的短いため、ハウス内では短期間に世代を繰り返し高密度となる可能性がある。 (2) 休眠性はなく、低温には弱いとされるが、12月の無加温ハウスでも成・幼虫による新しい食害痕が確認されたことから、施設栽培では冬の低温下でも実害が発生する可能性がある。</p> <p>5 防除対策 (1) 夏季に本種が発生したハウスでは、作物を抜き取り処分した後、ハウスを密封し蒸し込みを2週間程度行い、蛹を死滅させる。 (2) 栽培終了後の被害残さやほ場周辺の雑草は速やかに処分する。 (3) ハモグリバエ類が寄生している苗をほ場に持ち込まない。 (4) 冬季はハウスのビニールを撤去するなど、越冬場所を作らない。 (5) 本種に対しては、エマメグチン安息香酸塩乳剤、シロマジン液剤、フルフェノクスロン乳剤、カルタップ水溶剤が効果があるとされているが、使用の際には、作物に登録のある薬剤を使用し、希釈倍数、総使用回数などの使用方法等を厳守する。</p>		
期待される効果	アシグロハモグリバエの寄主植物と発生の特徴を明らかにすることにより、早期発見が可能となり、本種による被害拡大を防止できる。		
利用上の注意事項	<p>1 本資料は平成17年3月1日現在の農薬登録に基づいて作成した。</p> <p>2 農薬を使用する場合は、必ず最新の「農薬登録情報」(http://www.maff.go.jp/nouyak)を確認する。</p> <p>3 本種の同定は肉眼では困難なので、ハモグリバエ類による被害が目立つ場合には、関係機関に同定を依頼する。</p>		
担当	青森県農林総合研究センター 病害虫防除室 青森県農林総合研究センターフラワーセンター21あおもり 生産技術部 青森県農林総合研究センター畑作園芸試験場 病害虫防除室	対象地域	県下全域
発表文献等	平成16年度 農林総合研究センター成績概要集 平成16年度 農林総合研究センターフラワーセンター21あおもり成績概要集 第58回北日本病害虫研究会 (発表予定)		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 アシグロハモグリバエの発生確認状況
(平成16年 青森農林総研、青森農林総研フワセ、
青森農林総研畑園試)

発生確認市町村	発生確認 地点数
青森市	1
弘前市	3
中津軽郡相馬村	2
南津軽郡尾上町	1
〃 田舎館村	2
〃 常盤村	1
〃 藤崎町	1
三戸郡 福地村	5
〃 名川町	1



写真1 幼虫による線状潜葉痕
(きゅうり)

表2 本県で寄生が確認された作物(植物)

(平成16年 青森農林総研、青森農林総研フワセ、青森農林総研畑園試)

科名	作物(植物)名
アカザ科	(野菜)ほうれんそう (雑草)シロザ
アルストロメリア科	(花き)アルストロメリア
アブラナ科	(野菜)キャベツ、だいこん、かぶ、 チンゲンサイ、オータムポエム
ウリ科	(野菜)きゅうり、かぼちゃ
キキョウ科	(花き)カンパニュラ
キク科	(野菜)レタス (花き)きく、アスター、サイネリア
キンポウゲ科	(雑草)ヒメムカシヨモギ
サクラソウ科	(花き)アネモネ
ツルムラサキ科	(花き)プリムラ・ジュリアン、 プリムラ・ポリアンサ
ナス科	(野菜)ツルムラサキ (野菜)トマト、ミニトマト、なす、 ピーマン、ばれいしょ
ナデシコ科	(花き)宿根カスミソウ
ヒユ科	(雑草)イヌビユ
マメ科	(野菜)いんげんまめ、だいず
リンドウ科	(花き)トルコギキョウ



写真2 幼虫による線状潜葉痕
(ほうれんそう)



写真3 幼虫による線状潜葉痕
(きく)

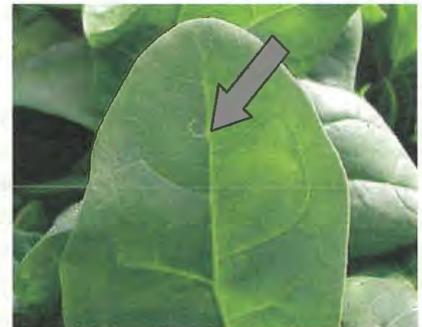


写真4 ふ化幼虫の食入痕
(ほうれんそう)



写真5 成虫の食害痕・産卵痕
(ほうれんそう)



写真6 アシグロハモグリバエ成虫



写真7 アシグロハモグリバエ幼虫